

蔵出しお宝ニュース

— 第 5 7 号 —

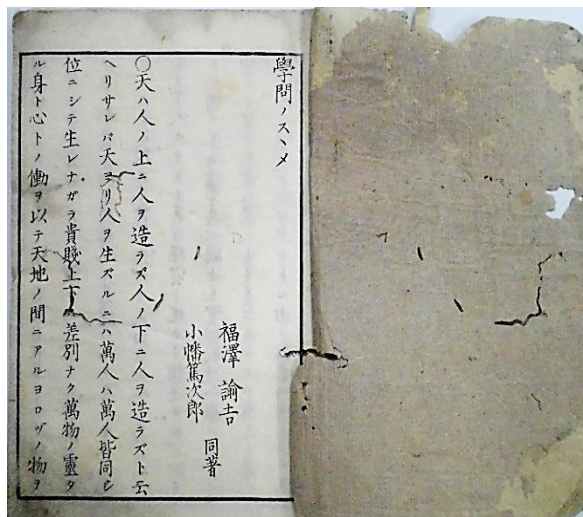
「昔の教科書展」開催中

当館では、「昔の教科書展-明治から昭和まで-」を8月31日（金）まで開催しています。

収蔵資料のうち、1000点以上の教科書を整理したので、その報告も兼ねたものとして、展示を企画しました。今回展示している資料は明治時代以降のもので、日本が近代化する中で、教科書がどのように変遷していったのかを紹介しています。

資料の中でも著名なのが、「学問ノススメ」です。福沢諭吉が書いたこの本は、学問の大切さを説く内容であり、明治維新直後のなぜ勉学に励むのか、ということから教えていかなければならない当時の日本の情勢に非常にマッチしたものでした。

「学問ノススメ」は元々教科書として作られたものではなく、一般向けの本として発売されましたが、明治初期には政府が教科書として推奨しました。



このように、一般に販売された本が教科書として使用された例は明治初期に多く見られました。なぜなら、時代は学制が公布された直後であり、まだ教科書というものの自体がなかったため、一般的に発売されていた学術書を用いて、授業を行っていたためです。

そうした流れの中で、特に重要視されたのが、学問の大切さと、外国の事情について学ばせることでした。これは、明治初期に外国のことを学ばせるための本が多く出版されたことからうかがうことができます。福沢諭吉が書いた「西洋事情」や、西洋のマナーについて書いた「^{かんぜんくんちゅう}勸善訓蒙」、外国の様々な情報が書かれた「^{せかいにつくし}世界国盡」などがその例です。これらの本は、「小学教則」という、学制が公布されてまもなく制定された規則において、教科書として使用されました。

「学問ノススメ 全」 明治6(1873)年
学制初期においては重要な教科書でした。

今回の企画展では、明治だけではなく、大正、昭和の教科書の流れも分かるように、パネルと資料によって解説しています。ぜひ、ご覧ください。

江戸時代の教科書って？

日本に「学校」というものができて、それが本格的に機能し始めたのは、明治時代以降の話です。では、それ以前は教育機関がなかったのかということとそうではありません。

有名なものでは、江戸時代の「寺子屋」です。今回当館で整理した教科書の中には、この寺子屋などで使われた、江戸時代の教科書も数多くあります。そのうちの一部をご紹介します。



庭訓往来 貞享5(1688)年
往来書簡(手紙のやりとり)を中心に、多岐に渡る一般常識を教える教科書です。

まず紹介する教科書は、「^{しょうばいおうらい}商売往来」です。江戸時代の教科書は主に「^{おうらいもの}往来物」と呼ばれるもので、これは中世以降、寺院において、主に武士階級の教育のために使われていました。「商売往来」は特に商人の子に向けて作られたものであることから、武士の子どもだけではなく一般の子どもも教育を受けていたことがわかります。

内容は商人としての心得や金銭についての基礎知識などのほか、さまざまな地名も書かれています。実業的な知識を付けるために使われました。

往来物は、他にも、商人用だけではなく、農民や、職人用に作られたものもありました。

資料館 収蔵資料紹介



- 〔名称〕 縄文土器
- 〔時代〕 縄文時代後期
(前 2000 から前 1000 年)
- 〔情報〕 岩鼻下遺跡(現西小学校校地)から出土
2階常設展で展示中
- 〔一言〕 縄文土器は、縄目や小竹、貝殻など様々な材料を使った文様が特徴的です。

次に紹介する教科書は、元々武士向けとして作られ、寺子屋で広く使われた「^{ていきんおうらい}庭訓往来」です。

庭訓往来は、室町時代に成立した往来物です。内容は、1月から12月までの往来書簡の例を挙げながら、その中に豊富な話題を盛り込むことで、さまざまな教育が行えるというものです。

この本は、往来物の代表格として挙げられることが多く、江戸時代における教科書の基本として扱われました。

このように、江戸時代にも子どもの教育は盛んに行われていました。日本の明治以降の教育は、こうした下地によって成されたことがわかります。

発行 平成 30 年 8 月 16 日

〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号

三原市歴史民俗資料館

TEL・FAX 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用されないようお願い申し上げます。